

令和7年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(共和地区)

開催日時	令和7年10月24日(金)午後7時00分から午後8時50分
場所	共和トレーニングセンター
町民参加者	14人
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画総務課長、参事兼地域防災課長、財務課長、保険健康課長、環境課長、農林課長、商工観光課長、都市整備課長、事務局2人

意見交換の概要

〈町からのテーマ 山北町・各地区の将来の姿について〉

町長： 山北町の大きな課題として、少子高齢化による人口減少が挙げられる。山北町は森林が多いことからこれを生かすために、地域おこし協力隊を活用して取り組んでいきたいと考えている。また、共和地区の「山北のお峰入り」をはじめ町全体では、「室生神社の流鏝馬」や「世附の百万遍念仏」といった何百年も続く文化遺産があり、近隣市町に比べて歴史のあるものが多く、これらを将来に向けて継続できるよう取り組んでいきたいと考えている。

共和地区は福祉バスなど町内でも最先端の取り組みを行っているので、町としても共和地区の取り組みを今後も参考にしていきたいと思っている。

[所管課：農林課]

ナラ枯れが発生し、大きな問題となっている。今後も増えていくのではないかと危惧している。地区の人口も減少しており、対応できる人も少なくなるという心配もある。クリーンキャンペーンの際にもナラ枯れの木が道に出てしまっており、チェーンソーなどで処理を行った。他にも大きなナラ枯れの木があり、倒れて電線などを切ってしまうと停電になってしまい生活に支障が出てしまう恐れがある。今年4月には大野山ハイキングコースを巡視したが、47本のナラ枯れした木があり、町から予算をもらって対応することができたが、他の場所でもナラ枯れが多く発生している。現在のナラ枯れの状況と将来への対策について伺いたい。

また、町や地域でも把握していない危険な木があると思われるので、町と連絡をとりあって対応していきたい。

農林課長： ナラ枯れ対策については、町で毎年予算を確保しているが、ナラ枯れの木を1本処理するには、ひどいものだと30万円から40万円という多額の費用がかかる。現在、神奈川県内では新たにナラ枯れになる木はほとんどなくなっており、神奈川県の調査によると現在ナラ枯れで倒れてしまう木は3年前にナラ枯れになった木となっている。町内各所でナラ枯れの被害があるが、処理の件数としては共和地区が多くなっている。このことから、ナラ枯れになる木は増えていかないと思われるが、今後も倒木の被害が発生する可能性はあるので、ナラ枯れの木を発見した場合には連絡いただきたい。今後も町で対策のための予算措置をし

ていく。

町長： 人命にかかる箇所はもちろんだが、生活に支障が出てしまう箇所については迅速に対応していく。森林環境譲与税も有効に活用していきたい。

[所管課：環境課]

都夫良野地区の新東名高速道路の工事車両の出入口付近に木材が不法投棄されていた。連合自治会長をとおして町に伝えたが、まだ処理されていないがどうなっているのか。

環境課長： 連合自治会長から連絡をいただいております。早急に処理するよう調整しています。ごみの処理は、原則土地の所有者又は管理者が処理するというルールもあることから、確認したうえで処理を行う。

副町長： 連絡いただいた件もそうだが、対応に時間を要する案件については町の対応状況を逐次報告するように職員に周知徹底していく。

[所管課：環境課、都市整備課]

安戸の信号付近の歩道に草木が繁茂し歩道が歩きづらくなっている。また、左折レーンの上方に電線を伝って道路に草木が垂れ下がり、車両の通行にも支障が出ており、直近では事故が発生している。原因となっている地主や電線を管理する業者が除去を行うべきであると思うが、町で対応することはできないか。

都市整備課長： 原因となっている土地の所有者を確認して対応することになるが、道路の通行に支障が出ていることから道路管理者で対応することになる。現地を確認して対応していきたい。

環境課長： 空き家・空き地から草木が伸びている場合で、所有者が死亡している場合は権利者を特定するのに何年もかかる場合がある。法律に基づき対応していきたい。

[所管課：環境課、農林課]

今年は毎日クマに関する報道がされているが、エサとなる山に木の実がならないことが一番の原因であると考えている。10年程前に地域でどんぐりを増やすために苗を植える取り組みを行ったこともあった。その際に何割かはシカなどに駄目にされたが、残った箇所は林になっている。他では探してもどんぐりをほとんど見つけることができない場所もあった。

それ以外にも山の木を切らなくなったこと、大きく成長してエサとなる木の実をつける品種が限られること、また人工林でスギ、ヒノキを多く植えたことも大きな原因であると考えている。山を豊かにすることが根本的な解決になるのではないかと考えている。

今年クマが出没している原因として、神奈川県ではシカの管理捕獲を実施していたが、捕獲して置いてきたシカはクマが食べていたと考えられる。それによりクマが肉の味を覚え、今後県がシカの管理捕獲を終えることになると肉を求めて、人里に降りてくるおそれがあると考えている。

副町長： いただいた情報を参考にしながら町としても取り組んでいきたい。

町長： 山に人が入らなくなったことにより、クマの被害が多くなっているとの見解も聞いている。クマの被害にあうと、命の危険もあるだけでなく、命が助かったとしても傷跡がひどく残ってしまう場合もあることから、最優先課題として取り組んでいく。

[所管課：農林課、都市整備課]

大野山の道路の舗装がガタガタになっている。工事は県が実施するものであるが町からも働きかけてもらいたい。今年大野山のベンチが燃えたことがあったが、その際に消防車が現場まで行けない車両があった。このことから要望書も提出しているが大野山と神明社をつなぐ緊急時に利用できる道路の整備を少しずつでもいいのでお願いしたい。

農林課長： 大野山の道路は今後林道になる予定となっており、所管も県の本庁から足柄上合庁になることから迅速な対応が期待される。道路の舗装については、県により現在少しずつ進められており、令和10年度までに舗装をやり直すという予定となっている。

大野山から神明社につながる道路については、現在、市間沢において県の治山工事が行われており、その工事が今年度末に終了することから、その後調査を開始する予定である。要望をいただいている箇所は勾配が急となっており、道路の整備が可能かどうかなどを検討していくこととなる。予算措置も今後検討していくこととなる。

[所管課：企画総務課]

都夫良野公園のところで昨年から工事が行われているようだが、情報があれば教えていただきたい。

企画総務課長： 当該箇所は簡保の跡地で、現在事業者の募集をしているところである。その中で、ある事業者から水道施設はどうなっているのか問い合わせがあった。その事業者が事業を実施すると決まっている訳ではないが、現在の状況を事業者側に確認を依頼したことから調査のための工事が行われたものである。今後、具体的な予定は決まっていない。

[所管課：企画総務課]

地域おこし協力隊の活用を検討しているとのことであったが、具体的な活用方法などは検討しているのか。地域でどういう受け入れ態勢があったらいいかなどあれば伺いたい。

町長： 他自治体の話を聞きながら検討している状況である。山北町は森林が豊かにあることから森林を活用した地域おこしに取り組んでいきたいと考えている。地域おこし協力隊の募集については町が公募するという手段もあるが、多くの自治体では専門知識を持ったアドバイザーをとおして募集しているので、まずはそのアドバイザーを公募していきたいと考えている。また、インターン制度もあるので皆さんの生活の向上のためになるものがあれば導入を検討していきたい。

[所管課：保険健康課、商工観光課]

大井町や松田町などでは、プレミアム商品券が発行されているが高齢者の生活支援のために山北町でも発行してもらえたらと思う。町の考えを伺いたい。

共和地区には、介護ヘルパーが来てくれないという話があった。高齢になり介護ヘルパーが必要になった時にきてくれるような体制を町で整えてもらいたい。

町長： プレミアム商品券については、過去に山北町でも発行したことはある。現在の経済状況を踏まえ検討していきたい。自治体によっては、地域通貨を導入しているところもあるので、それにプレミアムをつけるといった手法も検討したいと考えている。山北町だけではなく足柄上郡5町と連携して導入することも考えていきたい。

保険健康課長： 共和地区だけでなく、町全体、全国的にも介護ヘルパーが不足している状況である。不足している一番の原因はヘルパーのなり手不足となっている。全国的な問題であり、町だけでは解決できる問題ではないが、少しでもこの問題を解消できるよう検討しているところである。

[所管課：商工観光課]

松田町の河津桜が有名で多くの人々で賑っているが、共和地区でも大野山で河津桜を植えて取り組んだことがあったが、うまくいかなかった。松田町では32万人もの人が来たと聞いている。松田町に河津桜を見に来たお客さんを山北町に来てもらえるような取り組みをしたらどうか。

町長： 松田町の河津桜を見に来るお客さんは大変多くなっている。同じ時期に開催される世附の百万遍念仏を見るために、松田の河津桜を見たお客さんが歩いて見に来ているとも聞いている。たくさんの人に来てもらうには、花などの目玉が必要であると思う。今後スマートインターチェンジの開通を控えているので、それらも上手く活用した取り組みを考えていきたい。

[所管課：商工観光課]

町の商品券を使えない店がある。使えない店はなぜ使えないのか。今後使える店を増やして欲しい。

商工観光課長： 商品券を取り扱うかどうかは、店舗の判断による。

副町長： 商品券の取り扱いを希望する店舗があれば、町から話をすることも可能かと思う。

大学の先生と話をする機会があり、エコミュージアムという地域の循環型のミュージアムについて話を聞いた。エコミュージアムは通常の博物館とは異なり、地域全体を博物館とした地域循環型の博物館のことである。山北町は様々な場所に人が住んでおり、町には「山北のお峰入り」など特徴的なものがあるので、町外の人に来てもらい、町のスポットを循環して見てもらうというイメージはよいと思った。様々な人の意見を聞きながら、今あるものを上手く活用していくといった取り組みができれば、町も活性化できると思う。

副町長： 提案いただいたように様々な施設、人をつなげていく取り組みは大事だと思う。こういった新たな取り組みを今後検討していく必要があるのではないかと考えている。